

視察報告書

日時：10月1日（水）9時30分～14時

視察先：陸上自衛隊松本駐屯地

住所：〒390-0844 長野県松本市高宮西1-1

報告者：秋山良治

【視察目的】

- ・松本駐屯地に配備されている部隊と、その役割について
- ・災害派遣と地域連携について
- ・山岳レンジャーについて
- ・自衛官の勤務体制と福利厚生について

【概要】

松本駐屯地は陸上自衛隊東部方面隊に所属する駐屯地であり、長野県内唯一の陸上自衛隊拠点として位置付けられている。県内を警備・支援対象区域としており、地域防衛・災害派遣の中心的役割を担っている。創立以来70年以上の歴史を有し、昭和25年に設立され、昭和29年の自衛隊発足に伴い第13普通科連隊が編成された。その後、第12師団隷下を経て現在は第12旅団に所属している。

松本駐屯地の特徴の1つに山岳レンジャーがある。松本駐屯地のレンジャー隊員はアルプスの山々で山岳技術を練成しており、平成26年の御嶽山噴火災害派遣等の山地における災害派遣では先頭に立って活動に従事。松本駐屯地に配備されている部隊は普通科連隊と施設隊の2連隊。普通科連隊は、陸上自衛隊の中核をなす部隊であり、防衛・警備や災害派遣・人命救助などを最前線で直接活動することが主な任務となっている。施設隊は、道路・橋梁の構築、障害物の除去、復旧作業などである。

【内容】

自衛隊法の第三条に、自衛隊は、我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つためとあり、その任務遂行のために日々訓練を重ねている。災害派遣については、災害派遣時の3原則というものがあり①緊急性②非代替性③公共性であり、全ての条件が揃い県知事の要請で出動が可能となる。警察、消防での対応困難時の最終砦である。松本駐屯地では、県内にある数々の山々の特性を活かした山岳技術に特化したレンジャー部隊として、山岳レンジャーがある。

防弾チョッキ等の装備品の装着等の体験。食堂で自衛隊員と同じメニューを試食。高機動車への乗車体験で基地内の訓練場、資料館等の見学等を行った。

【感想】

今回の視察を通じ最も印象的だったことは、平時においては日々厳しい訓練を積み重ね、災害時には最前線で命を懸けて任務に当たる自衛隊員の姿でした。特に御嶽山の噴火災害の際には、「死も覚悟した」という生々しい体験談も伺い、その覚悟と使命感の強さを感じました。

そして、近年は防衛費増額のニュースがある中で、現場の装備にはまだ十分に反映されていない現状が

あることを聞きました。例えば、隊員自らが性能の良いブーツや速乾性高いTシャツを自費で購入していることが多く、これらの装備は動きやすさや体力の温存にも関係することから、自分たちの命を守ることに直結します。今後は、今まで以上に現場の声を聞きながら隊員の安全確保に直結することに防衛費が使われることを望みます。

また、「自衛隊=戦争」といった誤ったイメージ持つ人もいますが、実際には、戦争が起こらないように日々願い、万が一の場合には真っ先に現場に赴くのが自衛隊の方々です。むしろ戦争を最も望まないのは、自衛隊員とその家族であることは間違いありません。

今回の視察を通して、日本に自衛隊はなくてはならない存在だと改めて感じました。そして、多くの市民に自衛隊の実際の活動を正しく知ってもらうこと、正しく理解してもらうことが重要だと感じました。私も微力ながら応援を続けていきます。